

刊夕日九月十



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 五元 十元 二十元 三十元 五十元 六十元 七十元 八十元 九十元 一百元
印刷所 常警日新新聞社
電話 六二〇〇
社址 東京市神田區常盤寺二丁目

軽い研究(二)

谷口安比呂

世界中、支那人ほど金を愛する國民はない。或人は『支那人』以上だと言つて居た。

何しろ戦争最中、士民は釜を頭からスツポリ被り、彈丸よけにし乍ら戦死者のフトコロから墓口を捕ると云ふのだから呆れて物が言へない。其れも國狀なら止むを得ないが、彼等は爲政者及び軍人は全然アテにならぬので、結局金銭にカチり付くと云ふ寸法。よつて一から十まで金づくで、嫁さん貰ふにも身の代金出さねば呉れない。キリヨのいゝ娘なら、嫁にやつても千圓位に賣れるから、子供は男より女の子を大切にす。いつか上海で夥しい捨子があつたが其れは皆男の子であつた。

先年來満州に、幾千といふ張學良の便衣隊が入り込んで、日本も満州も大困りしたが、『ゴロン』と捕まへて殺すと、直ぐあとから性こりもなく又来る。丁度竹の子を切る様なもので、切つても〜ニヨキ〜そばから出る。あれは學良が金グツフを笹ましたので支那

人は金に目がないから、僅かの〇を握らされてもクラクラとし、僥倖を期して虎口に飛び込んだのだ。イノチの安賣りもそうなると思ふながら憎いよりも、哀れみが先立つと思ふ。

4

私若し頃より宿命論者で『此の世に存するものは皆神の許を得て在るものである』と云ふ事を信じて居た。で花柳界なるものは如何なる存在かと、或は疑ひ或は眞剣に考へても見たが近頃やうやく其の全貌を知つた様な氣もする。で……あれは一つの社會單位である。あまり香ばしい階級ではないが、さればとて其れを破壊すれば、社會機構が

ノート

喪章は和服の場合左の胸は左の胸洋服は左の腕に黒布を巻く、男女共オーバーニ重廻し、コートには不用

毀れる。もし花柳界なかりせば、一般娘の眞操が果して安全であらうか。知つての通り旦那方、があまり藝者銀行に預金すれば、奥さんは角を出し、ドラ息子が札びら切れば『かせぎも有りもしないで』と親達にドヤされる。いはゞ憎まれ役、中華民國の様に

水浴に花を飾り、營業も成る可く良心的に、無害有益に進み度いと業者は苦心してゐる次第である。

平高野 町島澤 町易定 前所象 地事相 家相 定事相

十月十日巳申三碧佛滅閉
【一】金談談談取引萬事吉利を得る日猛進は凶東西凶
【二】目に見て手に入らざる金談之爲不平を起す事ありは目上と和順が吉戌亥と辰巳凶【三】如何せうと心案に餘る凶事を引起す凶日なれば萬事用意周到に進む可し【四】縁目上の信を得て給料昇ると云ふ吉なれば金談談談も吉なり戌亥と辰巳凶【五】我が望事に猛進して吉を凶に醸す事ありは謙遜以て進むに吉東西凶【六】病氣怪俄に注意して現状維持を守るに吉未申丑寅凶【七】勞して功なく不平不愉快の事多ければ水火の難に注意して南北凶【八】我身屯底に陥り救助を呼ぶ様な日は萬事に注意南北凶【九】新金の件に勝利を得る日只怪俄と紛失盗難に注意

体温計の検査日です

お宅の体温計は？
◎正確な体温計を御使用下さい
◎毎月十日の検査日御利用下さい

度量衡 指定販賣人 西村屋藥局
計量器 電話 三番

科人婦。科外
院醫坂井
町田町平
香九五五話電

木村外 科醫院
平町五丁目橋際
電話九〇三番

新 出賣節舞

魚問屋

店理代平命生本日本最優最
榮 盛 賀 志
(三一二電)目丁四平

喜多流 謠曲と仕舞の 白土會

平田町六九
喜多流 謠曲 仕舞 白土會
お稽古をお勧め致します

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科
平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

貸切の...

御用命は!!!
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ (マツサキ)
三九二タクシーへ!!!

悲戀の兩名が 斷崖より飛ぶ

女は遂に絶命し 男は生命危篤に

石城郡勿來町料理店下野屋
事俵クラ方酌婦小島クラノ
(三)は豫ねてより馴染を重
ねて居た茨城縣平瀧町高杉
亘所有熊野丸船長島村英雄
(三)が金に窮して逢ふ瀬を
樂しめず悲感の餘り兩名心

戀仲を割かれ 婦人が服毒

苦悶中救られたが 生命覺束なし

石城郡湯本町字天王崎八幡
神社境内で去る六日午後四
時頃歳若い婦人が苦悶して
居るのを通行人が発見附近
の醫院で應急手當を加へた
がカルモチンを多量に嚥下
して居るので生命危篤であ

籠球大會は 昨年丈りで中止か

自校の内容充實が 何より肝腎と磐中校長語る

昨年初めて開催された磐中
競技部主催郡下各小學校
兒童籠球大會は今年より磐
中が主催を見合せる模様で
あるが右に關し小松山磐中
校長は左の如く語る

校が僅か三校に過ぎ
なかつたのは何を物語つ
て居ますか。今後自校
内の内容充實を計り遺憾
なく準備が整つた所で大
々的に催したいと思ひま
す……云々

入賞染物

工藝展への 平町出陳物

若松市に於いて開催された
第四回東北六縣工藝品競技
展覽會に於いて平町出品中
鎌田町草野七五三之助氏の
バット染印半天及び五丁目
馬目武之助氏の手拭(俳優)
は何れも入賞した

ラチオ聴取者が 殆んど前年の倍

増加率實に六割七分

平町に於けるラチオ聴取者
は本年七月現在數四百六
十七人にて是れを前年四月
一日現在の二百七十九人に
比較する時は實に六割七分
の増加率を示し其後も逐日
増加の趨勢を進めつゝある
由

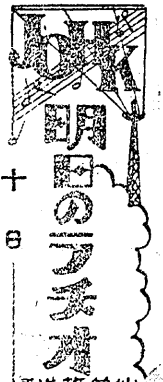
救護法講習

二十五日に

石城郡下各町村の救護法取
扱係員は今回の改正案に關
し来る廿五日午前九時より
團体事務所樓上で講習を受
けると

郡内の運動會

石城
郡錦村小學校では来る十七
日午前八時より校庭に於い



今晩の部
後六〇〇(子供の時間)
お話「燈下親しむべし」橋
本耕之介
後六二五 英語講座(二)
の三) 勝田孝典
後七三〇 産業ニュース
後八〇〇 浪花節「利根
の仇討」妻川歌燕
後八、四〇 哥澤 哥澤芝

勢社中
後九〇〇 長唄
後九三〇 時報 ニュ
ス 氣象通報 番組豫告

明日の部
閉院參謀總長宮殿下 賀
陽宮殿下 閉院若宮殿下
竹田宮殿下 李鍵公殿下
奉迎放送番組
前六、三〇 基礎獨語講座

健康保險映畫 石城
郡磐城炭礦健康保險組合の
従業員慰安映畫會は昨日八
六時より高坂地内山神社内
に於いて開かれた

公園指導標 過般菅
青年等建設 ノ澤開
通記念碑の清掃作業を行
つた古銀治町青年分團聯志
部では此度通行人の便を圖
る爲め公園の裏入口を始め
區内三ヶ所に指導標を建立
した

鎌田地内線に 厭世少年が轢死

八日午前六時頃神谷村字鎌
田トンネル入口の常磐線下
り線路に一名の少年が頭部
其他を紛碎されて即死して
居たのを通行人が発見し届
出により平署員が検死した
結果平町五丁目金光堂時計
店方雇人水谷賢治(一)假名
と判名したが原因は神経衰
弱からであると

北海道へ移住 石城
郡好開村根内義一は今回北

平職業紹介所報告
回人を求める方
△仕上工見習 十八才 尋
卒 仕着小遣(平町某)
△農夫 五十迄 月十五圓
位 外面談(鹿島村某)
△看護婦見習 十七才 高

(十二)橋本忠夫
前九、一〇料理献一ト
マト・オムレツ「朝倉朝
吉
前一〇、三〇趣味講演
「松島の風景と舊蹟」大宮
司雅之輔
後一〇、五〇琵琶「吹雪の
敵」半田錦崇
後一、五〇野球試合實況
東京大學野球聯盟リーグ
戦(早稲田一帝大)神宮球
場より中継
後二、〇〇趣味講演「平
泉文化の裡面」藤原相之
助

後六、〇〇(子供の時間)
お話「騎兵と東北地方」陸
軍少将大泉製之助
後六、二五 基礎佛語講座
(九)目黒三郎
後七、三〇講演「日本築
城史」の仙臺城「東北帝
大教授文學博士大類伸
後八、〇〇 謠曲「松風」梅
若實邦外大勢
後八、四〇 等曲「さらし」
箏小林巖 同川島澄勢
同針生てる子
後八、五五 民謡「さんし
ぐれ」外八ッ 唄吉木桃園
外大勢

△製材職人 四十三才 高
卒 給料面談(平町某)
△給仕 十七才 商半途
給料面談(平町某)
△材木店員 二十三才 高
卒 給料面談(田人村某)
△土木現場監督 三十八才
青年卒 給料面談(内郷
村某)

夏から秋・冬へ!!! 「衣裳御着替」

特に勉強致します

旭屋 一六銀行

平三丁目 電話二五番

印刷御用命
の物は印刷日毎警常
て總は命用御
株式印刷日毎警常
番〇三六話電

吉田眼科病院

平野町、電話六八番



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第六十回 血に飢ゆる村正

胸に一物の親切

次郎吉は外へ洩れないやうに小聲になつて

次『サア旦那モ御心配は御座いませぬ物置で聞いてお出でなすつたらうが態と皆なの足を留て長い話をし居たのも茲の家に念の残らねえやうにと思つての事でございませぬ、サア蕎麥湯を一杯お上んなさい』

三『種々親切に忝ない何か聞いた事もあるだらうが何事も御内々に願ひたい』

次『若し中は色々な事がございませぬ別に私が申す事はございませぬが然し今のお侍の話にお兄さんが大層御迷惑をして居るやうに聞きました宜しい鹽梅にお兄いさんを助けて上げる御工夫をなさいませ』

三『實に僅かの心得違ひをいたし兄へ對しても先祖へ對しても申譯がないが是といふのも一婦人に迷つたばかり就ては亭主茲に二十兩の金子を差置いたどうぞ是で今晚の所は勘辨いたして呉れ』

次『旦那談しちやア往けねえ夫ぢやア私が金を欲しさに前さんを匿まつたやうに當ります元から幾らある

から匿まつて呉れといつたのでもなし幾ら呉れたら匿まつて上やうと申した譯でもございませぬホンの男の意氣張りで助けて呉れと仰有るゆゑ是までの事はしましたるが鑑一文貰つても夫ぢ



第六十回

者が心苦しい』
次『何んの然んな御心配にやア及びませぬおきくや何か蕎麥を拵へてお上げ申せ……』

菊『ハイ』
と話の中に花巻を拵へて侍の前へ出す侍は然らば馳走に相成らうと其の蕎麥を食するにも何だかオド／＼して漸う一杯の蕎麥を食しましたお代りをといふのを三『イヤ充分に頂戴いたした御内儀是は甚だ失禮ぢやが蕎麥の代に取つし置いて下され』

と二十兩の金子をおきく

やア親切が慾情になりまするどうぞ金はソツクリお持ちなさい、二三日匿まつて上たいが今の様子ぢやアまだ大勢が來さうな様子も見えませぬ今からそばでも食つて腹を拵へ今夜の中に二里でも三里でもお立退きなさい』

三『デハござるが是を受取つて下さらんではどう

どうぞ御持ちなすつて下さいまし、然うしてお急ぎ立て申すやうでございませぬが

お立退きになるなら少しも早い方が宜うございませぬ』
次『今歸つた侍がモ一少しすると又來ませう夫より直にお出なさりやア丁度出違ひになる勘定だ然し何處へお出でなされる』

三『左様何方へ參らうといふまだ的もないが中仙道へ出たいと思ひませぬ』
次『そんなら是から西ヶ原へ出て王子の傍から枝道をして往かないと往けませぬ道が知れねえから四五丁私が送つてつて上ませう』

三『夫は御親切に忝じけないうちか御禮は致すが』
次『旦那動ともすると禮をやるよ云ひなされるが錢金で御供は致しませぬ私若氣の誤りで心得違ひをした事があるから罪滅ぼしにお世話をするのでございませぬサア些とも早く參りませう』

と侍を伴ふて出ました次郎吉胸に一物あつての事でございませぬと遠い路を廻り丁度猫又坂へ懸かりましたのが九ツ頃晝でさい淋しい所夜の九ツでございませぬれば往來は絶えて居ります

次『アイア、』
三『どうかなすつたか』
次『ヘエ先刻から腹が痛いのを我慢して居りましたがア、いてえ』

三『夫は困つたものだから先は一人で參りますゆゑ早く歸つて薬でも上んなつたら宜しからう』
次『せめて道の分る所ま

で案内をし上やうと思ひましたは是ぢやア逆も歩けません』
と云ひながら大地へドツサリ倒れたのを彼の侍は氣の毒に思ひ此處邊りへ差込みますかと次郎吉の胸の邊りをさすつて呉れる油断を見澄まし用意の合口抜くより早く侍の脇腹へ深く突込みましたアツといつたが

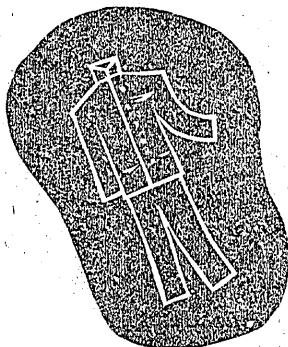
三四郎は其の儘ドツ倒れるの上へ跨つた次郎吉が邊りを見ながら
次『イヤ金せえなけりやア殺す氣にやアならねえが金が敵と思ふが宜い』
と又一刺り

と又一刺り

小学生用(長ズボン付)	
A	90
B	1.10
特製	2.50
中学生用	
特製 6號	3.50
御注文(特上)	6.50均一

ふかや洋服店 平三 203

黒小倉通學服賣出



冬服の御用意をなさいましたか
弊店は御満足の頂ける黒小倉服を
澤山取揃へ特價にてお務めてお
ります……

中村齒科醫院

毎度格別なる御最負に預り有難く御禮申上ます。
豫ねてより御好評を戴きました、弊店獨特の季節御料理を始めました。
何卒御尊來御試食の程伏して御待ち申上げます。
ひな鳥
水たき
季節向新鮮
松たけ御料理
割烹 住吉屋本店
電話一五九番

品質第一

電話二六八番

平搾乳所

平町・九品寺前

質物一般

夜九時迄出し入れ致します



三井質店

平四 (電話六〇六番)



玉屋洋品店

平町四町通 電話六五六番